

テーマ：家計調査（2011年9月）  
 ～個人消費は先行き低調に推移する可能性大～

発表日：2011年10月28日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528

(%)

		実質消費支出（二人以上世帯）				実質可処分所得 （勤労者世帯）		消費性向 （勤労者世帯）	
		合計		除く住居等（※）		前年比	前期比	季調値	前期比
		前年比	前期比	前年比	前期比				
10	1月	1.7	▲ 1.3	0.4	▲ 2.1	▲ 0.4	1.8	72.6	▲ 2.7
	2月	▲ 0.5	▲ 1.1	0.1	▲ 0.3	1.5	▲ 0.1	72.9	0.3
	3月	4.4	5.9	3.2	4.5	0.3	▲ 1.0	78.0	5.1
	4月	▲ 0.7	▲ 5.9	▲ 1.5	▲ 5.0	0.8	1.4	72.7	▲ 5.3
	5月	▲ 0.7	0.5	▲ 0.8	0.8	▲ 5.3	▲ 1.5	72.9	0.2
	6月	0.5	2.4	0.1	1.8	7.4	4.3	71.8	▲ 1.1
	7月	1.1	▲ 0.2	0.8	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 3.4	75.4	3.6
	8月	1.7	0.8	0.1	0.0	0.6	0.5	75.5	0.1
	9月	0.0	▲ 0.4	▲ 0.5	0.3	1.6	1.1	75.1	▲ 0.4
	10月	▲ 0.4	▲ 0.8	1.0	0.6	8.1	6.9	70.8	▲ 4.3
	11月	▲ 0.4	0.1	▲ 0.7	▲ 0.8	0.5	▲ 7.4	75.6	4.8
	12月	▲ 3.3	▲ 2.3	▲ 2.6	▲ 1.4	▲ 1.4	▲ 2.6	74.1	▲ 1.5
11	1月	▲ 0.3	0.9	▲ 0.5	▲ 1.5	▲ 2.7	▲ 0.2	74.1	0.0
	2月	0.5	▲ 0.3	0.2	1.1	2.1	4.8	71.5	▲ 2.6
	3月	▲ 8.2	▲ 2.8	▲ 7.2	▲ 2.6	▲ 3.0	▲ 5.9	72.6	1.1
	4月	▲ 2.0	1.0	▲ 2.0	0.3	▲ 1.8	2.9	72.9	0.3
	5月	▲ 1.2	▲ 0.3	▲ 1.1	0.9	▲ 2.9	▲ 2.8	74.7	1.8
	6月	▲ 3.5	0.8	▲ 2.8	0.5	▲ 5.9	0.9	73.6	▲ 1.1
	7月	▲ 2.1	0.7	▲ 1.0	1.4	1.1	3.9	71.9	▲ 1.7
	8月	▲ 4.1	▲ 0.1	▲ 4.0	▲ 2.3	▲ 1.9	▲ 2.8	73.8	1.9
	9月	▲ 1.9	0.9	▲ 1.6	2.1	▲ 1.4	1.7	74.3	0.5

（出所）総務省「家計調査報告」

※「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている

## ○ 市場予想を上回るが、割り引いて見る必要あり

総務省から公表された9月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比▲1.9%となり、市場予想（同▲3.3%）を上回った。前月比でも+0.9%と増加している。また、消費の基調を見る上でより重要な「除く住居等<sup>1</sup>」でも前年比▲1.6%と減少幅が縮小、前月比では+2.1%と高い伸びになっている。財のみの統計である商業販売統計（小売業）は前月比で減少していたが、9月はサービス消費が比較的好調であり、サービスも含まれる家計調査では比較的良好な結果となったようだ。ただし、9月の家計調査の内訳をみると、私立大学授業料が大幅に増加しており、押し上げ要因になっている点に注意が必要である。授業料は納付時期のズレなどを理由に攪乱要因になりやすいため、この点は割り引いてみた方が良いと思われる。

家計調査以外の統計も併せて総合的に判断すると、「7月までの消費を押し上げていた『テレビ販売の駆け込み需要』と『節電特需』という一時的な要因が剥落（反動）したことから、消費は足元で回復ペースが鈍化している」と評価される。

<sup>1</sup> 「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。

## ○ 個人消費は先行き低調に推移する可能性大

先行きについても大きな期待はできないだろう。消費を取り巻く環境をみても、雇用・賃金の回復が極めて限定的なものにとどまることが予想されることに加え、景気の先行き不透明感の強まりから、消費者マインドも今後は改善ペースが鈍化する可能性が高い。また、これまで大規模な需要の先食いが生じていたテレビ販売は先行きも低調な推移が続くと見込まれるほか、好調が持続している自動車販売についても、今後は次第に伸びが鈍化していくとみられる。個人消費は、先行き低調に推移する可能性が高いだろう。7-9月期の個人消費についてはゲタの効果から増加が見込まれる（筆者はGDP統計の7-9月期個人消費は前期比+0.7%になると予想している）が、10-12月期には前期比減少に転じる可能性もあると見ている。

